



事業所における自己評価総括表

事業所名	おもちゃ箱ふなばし			
保護者評価実施期間	2024年 4 月 1日 ～ 2025年 3月 31日			
保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	15
従業者評価実施期間	2024年 4 月 1 日 ～ 2025年 3月 31日			
従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
訪問先施設評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日			
訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
事業者向け自己評価表作成日	年 月 日			

○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人の発達段階の見極めや対応の仕方の工夫は職員間で情報共有をしっかりと行い、支援に生かしている。	定期的な支援の研修や情報交換、ケース会議での問題解決、話し合いをしっかりと行っている。	職員の支援のスキルを上げるためにも、研修は引き続き取り組み、利用者の問題点や悩み事を相談できる関係性を築いていく。
2	集団で生活することに重きをおき、集団での過ごし方・参加の仕方・考え方など今後の子ども達の未来に必要な力をつけられるよう、未来を見据えた支援を大切にしている。	集団で取り組む楽しさ、大切さを活動を通して伝えている。それぞれの苦手な事を活動の中に取り入れ、人とか関わる楽しさを感じられるプログラムを考えている。	お子様一人一人の個性の把握、成長段階を常に頭に入れ、支援の固定化にならないよう職員間で話し合いを続けていく。また新しい情報を問入れることに躊躇せず支援を向上させる方法を模索していく。
3	困り事（こだわり・偏食・かんしゃく）の改善・身辺自立の確立に力をいれ、利用者様の基礎となる力を最大限に伸ばせる支援を行っている。	身体をコントロールする目的として、活動に歩行訓練や運動活動（跳躍・支持・体幹）を取り入れ感情のコントロールへと導く。また色々な事を柔軟に考えられるよう考え方を知らせたり練習したりしている。	利用者様の「楽しい」やご家族の困りごとを吸い上げ、支援に取り入れ一人一人の個性を伸ばしていくことを常に考え今後も支援する。

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	常に定員がいっぱいで、新規利用者を受け入れられない。	定員は変えられないため、解決方法を模索していく。	定員は変えられないため、周辺の事業所へ連携をとり、保護者の方に情報を提供していく。
2	事業所の目の前が交通量の激しい国道なことや園庭などが無い。	安全面はしっかりと対応しており、こどもの手の届かないところに施設をし、安全配慮の人員を確保している。また運動面では定期的に体育館などを借り、思い切り身体を動かせる機会を設けている。	今後も継続的に取り組んでいく。
3			